

八学大17度目V 2季連続

北東北大学野球

北東北大学野球春季リーグは5日、青森市の県営球場などで1、2部計8連勝で2季連続17度目

6試合を行った。1部は首位の八戸学院大が青森中央学院大を11-2の七回コールドで破り、開幕

の優勝を決めた。6月に明治神宮野球場などで行われる全日本大学野球選手権に出場する。

八学大は四回、先頭平尾の二塁打を足掛かりに無死満塁と攻め立て、押し出し四球で先制。森

1部の県勢はこのほ

新体制で初の頂点

○八学大は、数々の実績を持つ正村前監督からバトンを受けた新沼館(しんぬま)監督が初のリーグ戦でチームを

頂点に導き、「非常にうれしい。正村前監督の願

いを果たせた」と喜びを語った。

新チーム発足後、何事も全員で悩み、全員で喜べる関係を築くよう心がけてきたという指揮官。

「とにかくやってみろ、失敗してみろ」と失敗を恐れぬ強い気持ちを選手に植え付け、好機での

一打につなげた。

新沼館監督は「全員の可能性を上げるために、

できることがたくさんある。全国大会で勝てるチームをつくる」と意気込

んだ。



4回猛攻 8安打8得点

「全員できょうの1勝を取りにいこう」。試合前、八学大の小林日主将が仲間たちに呼びかけた通りの攻撃だった。四回

打者13人を送り込み8安打で8得点。一丸となって大量点をもぎ取り、栄冠を手にした。

「ずば抜けてすごい選手はいないが、つながりが武器(小林日主将)という打線が、優勝が懸かった一戦で機能した。四回は平尾の二塁打を皮切りに

四死球を生かしながら森、畠山の単打で着実に加算。カウントを取りに来る甘い球を積極的

に狙い、野手の間を抜いた。勢いついた打線は止まらな

い。右打席には相手投手への対応力を買われ、今季途中から1番で起用された南。「みんなが

連打でつづけた流れでいけると思った」と、継続した投手の内

角直球を左翼席へ運ぶ満塁弾で勝利を大きく広げ寄せた。新

沼館(しんぬま)監督は「ま

とまった点数が取れるという、今季のいい部分が出た」とたた

えた。

チームスローガンは「常昇・常勝・常笑」。野球技術や人間力の向上を目指し、貪欲に勝利を追い求めた。残り2戦は、昨

秋のリーグ戦を制しながらも、明治神宮大会の代表決定戦決勝で敗れた富士大と激突する。小

林日主将は「全勝が目標。富士大に勝つてこそ神宮だと思っ

たので、気持ちを变えずに戦いたい。七ナインの思いを代弁した。

(本田海輝)

か、青森大が富士大に0-19の七回コールドで敗れた。八学大が8勝、2位富士大が5勝3敗となり、最終週の2戦を残して八学大の優勝が決まった。

2部の県勢は弘前大が青森公立大に9-10で快勝。八戸工業大は秋田大を4-3の逆転サヨナラで下し、優勝に望みをつ

ないだ。

(本田海輝、木村真悠)